

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

イチゴ炭疽病の発生状況（技術情報第6号）について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導の参考資料としてご活用下さい。

イチゴ炭疽病の発生状況（技術情報第6号）

イチゴ炭疽病の発生が雨よけをしていないほ場の育苗床で多くなっています。気象予報によると、向こう1ヶ月の降水量は平年並で、平年と同様に前半は曇りや雨の日が多い見込みです。現在、炭疽病が発生し雨よけをしていないほ場では、炭疽病菌が雨滴とともに広がり多発する恐れがありますので、以下の防除対策を徹底しましょう。

イチゴ炭疽病発生状況

- (1) 一昨年（炭疽病多発生年）から2～3月に実施している親株の保菌調査（下記調査方法による）では、保菌小葉率が萎凋性炭疽が2.6%（一昨年16.7%、昨年3.4%）、葉枯れ炭疽が0.5%（一昨年11.7%、昨年0.8%）と炭疽病菌の保菌率は低かった。
- (2) 5月の親株床の巡回調査では、発病株率が0.8%（一昨年10.1%、昨年0.4%、平年5.7%）と平年よりもやや少ない発生で、**雨よけをしていないほ場でのみ**発生を確認した。
- (3) 6月の育苗床の巡回調査では、発病株率が1.7%（一昨年2.0%、昨年0.0%、平年0.9%）と平年よりもやや多い発生で、**雨よけをしていないほ場でのみ**発生を確認した。
- (4) 平成18年6月30日福岡管区气象台発表の1ヶ月予報によると、向こう1ヶ月の降水量は平年並で、平年と同様に前半は曇りや雨の日が多い見込みである。
- (5) (1)～(4)より、雨よけをしていないほ場では6月の発病株率が高く、向こう1ヶ月の気象予報が炭疽病の発生に好適であるため多発する恐れがある。雨よけほ場では親株の保菌率が低く、現在までのところ巡回調査ほ場での発生を確認していないことから、今後育苗期に多発する恐れはないと考えられるが、台風襲来に伴うビニール被覆の除去により発生することもあるので注意する。

保菌調査：発病していない親株の下位葉（1ほ場あたり10～15株、1株あたり1複葉）を採取し、表面殺菌後、28℃で約14日間培養し分生子形成を調査した。

表1. 炭疽病発生状況

	平成16年				平成17年				平成18年			
	調査ほ場数		発病株率		調査ほ場数		発病株率		調査ほ場数		発病株率	
親株床発病調査 (5月中・下旬巡回)	16	雨よけ 3 雨よけなし 13	10.1	雨よけ 9.3 雨よけなし 10.3	9	雨よけ 1 雨よけなし 8	0.4	雨よけ 0.0 雨よけなし 0.5	16	雨よけ 9 雨よけなし 7	0.8	雨よけ 0.0 雨よけなし 1.7
育苗床発病調査 (6月中・下旬巡回)	5	雨よけ - 雨よけなし 5	2.0	雨よけ - 雨よけなし 2.0	8	雨よけ 5 雨よけなし 3	0.0	雨よけ 0.0 雨よけなし 0.0	6	雨よけ 4 雨よけなし 2	1.7	雨よけ 0.0 雨よけなし 5.0

発病調査：1ほ場あたり50株調査。

防除対策

- (1) **炭疽病菌の胞子は雨滴によって伝搬するため、育苗床はビニール被覆による雨よけを行う。**
- (2) かん水は、夕方には培土表面が乾くように午前中心に行う。
- (3) 発病株は直ちにほ場外に持ち出し、ビニール袋に入れ密封し、太陽熱消毒などにより殺菌してから処分する。
- (4) 定期的に薬剤防除を行うが、特に台風等の強風雨時には胞子の飛散が多くなるので、通過前後は薬剤防除を行う。また、摘葉、ランナー切除後も感染しやすいので防除を徹底する。